

## 保育内容の研究 (6)

— Y男の育ちにおける保育者の役割をさぐる —

○ 村田陽子 佐藤 登

(山口大学附属幼稚園) (山口大学)

はじめに

保育者が1993年の新学期当初、子どもたちと生活する中で、特に気になったり手がかかったりするY男(昨年の3才児から当幼稚園で生活している)について保育実践からY男の園生活での育ちの過程とそこでの保育者の役割をさぐる。

### 4月当初

1993年4月13日(火) - 保育記録1 -

降園前Y男だけは保育室へ入ってこない。養護教諭がY男を保育室へ連れてくる。しかしすぐ出て行く。3回も出たり入ったりしてやっと保育室へ落ち着く。そこで保育者はY男に「よく帰って来たね。おりこうになったね。やっぱり風組のお兄さんになったね」と誉める。Y男はにっこりする。その後他の子たちは紙芝居を見るのにY男は何回となく自分が持って来た怪獣を水道で洗ってはタオルで拭く。

※新しいクラスになって2日目、新入児が23名も居ることと保育者も変わったことで3才児学級終り頃より更に情緒が不安定になっているのであろうと思える。

◇この頃の様子

- ・保育者が朝の挨拶をしても顔をそむけ、何を話しかけても目が定らず聞こうとしないし心が通い合わない。
  - ・友達とのかかわりは叩いたり蹴ったりで会話がない。
  - ・言い聞かせても言い聞かせても幼稚園の外に出るし保育室に入らなければならない時も入らない。
  - ・鶏と水に興味が強くて、鶏を抱いて歩きまわったり蛇口やハウスからあちこち水を飛ばす。
- ◎情緒が不安定で友達とのかかわりもうまくいかない。まず保育者との心の交流ができるようにしようと思う。抱いたり手を握ったりして、ゆっくり話したり聞いたりし、Y男のちょっとした良さを認め、誉め、温かく受けとめ見守るようにする。

### 5月中旬

1993年5月17日(日) - 保育記録2 -

鶏を3回も池の中へ突っ込む。その度に言い聞かせる。するとY男は池から鶏を上げ雑巾で拭く。その後鉛筆やはさみを持って走り回ったり投げたりする。保育者は危いので厳しく言い聞かせる。すると弁当前保育室へ帰って来ない。職員の車の後ろに隠れている。

保育者が「Yちゃん、お弁当を食べるのでお部屋へ帰ろう。みんなは待っているのよ。10まで数えるまでに先生の所へきてごらん」と叫ぶように言う。Y男は遠くには行かず保育者の言う事を聞いている。そして保育者が数を6数えた所で保育者の体へぶつかって来る。保育者「あっ!10にならないのにもう来たね。おりこうさんだ。おりこうだからお部屋までおんぶして行ってあげよう」と行っておんぶする。Y男は保育者の頬へチュッと口を当てる。保育者の耳元で「ないしょ。Y-坊-Mてんでいだい好き」と言う。「先生もY君がだい好き」と言う。するとY男は保育者の背中で体を振り回し嬉しいという表現をして見せる。※寂しさを感じながら自分勝手な行動をする。一方自分の存在感を求めている保育者の言葉に素直に応え、そこで心の大きな喜びを表現しているように思える。

◇この頃の様子

- ・表情が明るくなり自分から挨拶をするようになる。
- ・保育者の言葉に耳を傾けるようになり、花や水をやっていると走って来て手伝うようなこともある。
- ・鶏を抱いて可愛がるかと思えば急に羽を持って振りまわし虐待的な態度も見せる。
- ・弁当時や降園前等、保育室へ入らなくてはならない時寝ころがったりして椅子に着けない時もあるが入ってくるようにはなる。

◎保育者と心が通い合い安定してきた。寝ころがっていてもY男なりに保育室の中で静かにしようと一生懸命自分をコントロールしていることを認めようと思う。Y男と向かい合い丁寧にいかかわり内面を理解するようにし、小さなことをみつけ認めたり誉めたり励ましたりして更に交流を深めるようにする。

### 9月中旬

1993年9月17日(金) - 保育記録3 -

弁当を食べ終わったY男は「ビデオを見たい」と言ってくる。そこで保育者はY男にビデオを選ばせる。Y男は「狼と七匹の小山羊」を選ぶ。みんなが弁当を食べ終わり、ごちそう様をするとY男は「みんなービデオが始まるよ。みんなー、ビデオだよー」と知らせる。保育者も「ビデオを見せてあげよう」と言ってビデオカセットテープをいれる。見たい子どもたちはテ

レビの前に集まる。Y男は「来ない人が居るよ」と言  
って友達を気にしながら椅子に腰掛けて一生懸命見る。  
※友達と一緒に、といった気持がではじめている。友  
達を気にしながら落ち着いた態度を見せる。

◇この頃の様子

・時にはあちこち動きまわることもあるが、落ち着き  
を見せはじめ、降園時椅子に腰かけるようになる。

・友達と一緒に砂場や積み木の場で短時間だが遊べる  
し、描くことにも興味を向けるようになった。

・保育者が園内に居ることで安心して動きまわるこ  
とができるようになり、遠くから保育者にVサインを  
送るようなこともあるようになった。

◎随分安定してきた。場の状況判断も少しずつでき  
るようになってきた。保育者との信頼関係が深まるよ  
うにし、友達とかかわることの楽しさを味合うよう  
になって欲しいと願う。

11月下旬

1993年11月22日(月) - 保育記録4 -

保育者とY男が同じ机で弁当を食べていると、Y男  
は19日の降園前に読んでもらった”スカンク カンク  
プー”の絵本の話の思い出す。「先生!スカンク カ  
ンク プーおもしろいね」と言い、絵本を持って来て  
弁当の側に置き、残りの弁当を食べる。食べ終わると  
弁当箱を手早く片付け、絵本をめくって見る。それか  
ら5人の男の子たちがガンダム人形を持って話してい  
る所へ行き、「スカンク カンク プー」と言って  
絵本を開く。Y男は「おもしろいね。スカンク カ  
ンク プー」と言って笑う。他の子たちも「スカンク  
カンク プー」と言ってみんなで大笑いする。

※とても和やかないい雰囲気、友達からも受け入れ  
られ落ち着いて友達と心を通わせている。

◇この頃の様子

・相変わらず鶏やアヒル等の動物が好きで、話しかけ  
たり、水や餌をあげたりする。かかわり方は上手にな  
ったが時には力づくで行動するので動物にとっては迷惑  
なこともある。

・友達に受け入れられ、話しながら一緒に遊ぶ姿も見  
られ、友達との関係が育ちつつある。

◎保育者に受け入れられ、見守られていると感じ、安  
心感を持って過ごしている。友達関係において、生活  
の中にルールのあることに気づいたり、それが分かっ  
たり、人間関係の温かさ等が感じられるようなかかわ  
りをしたいと思う。

1月中旬

1994年1月19日(水) - 保育記録5 -

昨日Y男が抜いたカナリアの毛(10本位)を出席シ  
ールを貼る机の上に置いておく。登園した子たちが次  
々に「きれい! カナリアの毛だ! どうしたの  
?」等と言って毛をさわったり見たりする。そのう  
ちY男が登園、母親は「まあ、きれいな毛ですね。ど  
うしたのですか?」と尋ねる。「昨日Y男君が、玄関  
ホールの鳥籠にいるカナリアの毛を抜いたそうですよ  
ね、Y男君」と保育者は話す。すると母親は「まあ可  
哀相に、まだこのような悪い事をするのですか?」と  
暗い顔になる。そこで「今頃、随分落ち着いてしま  
したよ。話しも落ち着いて聞けるようになったし、肌つ  
くりにも版画にも本気で取りくみました。友達とも話  
しながらだいふ上手に遊べるようになってきたのです  
よ。三学期はまた随分おりこうになったと思っていま  
したのに、ちょっとこのようないたづらをするので  
すよね」と保育者は母親へこの頃の様子を知らせる。  
母親は「Y男! そんな酷いことをしてはいけないよ」  
と注意する。Y男は下を向いて出席帳をじーっと見て  
いる。保育者が「Y君 副園長先生からお話を聞いた  
のよね。もう分かったよね」と話す。Y男は「うん  
」とうなずく。その話を聞いていたK男が「先生! Y  
男ねえ、こんなにして抜いたんだよ」と右手を伸ばし  
親指と人差し指で毛をつかみ、さっと引き抜く格好を  
して見せる。側にいたI子はびっくりして「可哀相!  
カナリアが痛いわあね。こんなに毛を抜いたら寒いよ  
Y君もうしたらだめよ」と酷い口調で言う。「Y君は  
もう分かってるのよね」と保育者は言う。Y男は「う  
ん、もうしません」と言う。そして鞆を片付けH男と  
剣づくりをはじめめる。

※保育者が母親にカナリアの事を話したり、母親や  
友達から注意を受けるが、その場を去らず攻撃的な態  
度もせず、反省した様子を見せる。

◇この頃の様子

・動物が大好きで可愛がるが、カナリヤの毛を抜いた  
り、アヒルに力づくでかかわったりする姿が見られる。

・保育者が丁寧なかかわりをすれば作ったり描いたり  
といった興味のあることには本気で取りくみ持続する。

・絵本や紙芝居、お話、テレビ等にも興味を示す。

・集まらなくてはならない時は集まり皆と一緒に生活  
に目が向きはじめルール等にも気づきはじめている。

◎「借して」と言って借りたり、相手の気持を汲んだ  
り、友達と楽しくするための約束ごとを守ろうとし  
たり等の意識が育つようなかかわりをしたいと思う。

あと一年、Y男がどのような園生活をおくるか見守  
りたい。